

1 学校教育目標	めざす生徒像
人権の尊重を基盤として、ふるさとを舞台に広い視野で考え、自ら学び、主体的に行動する、心豊かな人間の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命と人権を大切にし、生き抜く力を持った生徒 ○ いつまでもふるさと日吉を愛する生徒 ○ グローバルな視野で考えることができる生徒 ○ 学ぶ意欲と学ぶ力を身に付けた生徒 ○ 思いやりをもち、仲間と協調して取り組める生徒

2 本年度の重点
<ul style="list-style-type: none"> ①人権感覚を高め安心して学べる環境づくりに努める ②主体的、対話的で深い学びを実現する授業づくりを推進する ③道徳や特別活動を充実させ、豊かな人間性を育む ④将来を見据えたキャリア教育の充実を図る ⑤コミュニティ・スクールとして地域との協働を充実させる

3 目標・評価 *各目標数値(%)並びに回答結果数値(%)は、アンケートで「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と肯定的回答した数値合計の割合です(①⑥⑨を除く)

①人権感覚を高め安心して学べる環境づくりに努める					
評価項目とその観点	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ◆人権教育の充実と人権意識の高揚 ○いじめをはじめとした人権侵害・差別偏見を許さない仲間作りを進める。 ○人権学習を計画的・系統的に進める。 ○情報モラル学習を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①いじめの完全否定を100%にする。 ②「学校は楽しい」との回答割合を80%以上とする。 ③学級生活満足度を70%以上とする。 ④支援学校との交流・共同学習を実施し、心のバリアフリー意識の浸透を図る。 ⑤情報モラル学習を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権問題の正しい理解並びに人権感覚の高揚のために、人権学習の内容を見直し、計画的・系統的に進める。 ○一人一人に役割を与え、学校での居場所をつくる。 ○日頃の小さな言動を見逃さない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○①の割合は99%であった。 ○②の割合は目標値に達した。(80%) ○③の割合が目標値に達した。(70%) △④については、一度だけの講演では意識の浸透は不十分。 ●情報機器等の管理・確認が不十分 ○人権学習週間の位置づけ、指導内容の見直しが進んだ。 ▲人権学習の見通しを持った指導準備・計画という点では課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より教員自らが互いを尊重する姿勢を生徒に示していく。 ・人権学習の公開授業を実施し、指導力量を高める。 ・人権学習を中心にした各学年の見通しを持った指導計画の作成 ・「安全・安心な風土の醸成」の視点を重視した学級生活の維持 ・情報モラル指導の継続
②主体的、対話的で深い学びを実現する授業づくりを推進する					
評価項目とその観点	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現 ○「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を進める。 ◆ICT機器の効果的活用 ○ICTを効果的に活用した学ぶ力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥自分で計画を立てて学習する生徒割合を70%以上とする ⑦家庭学習30分未満の割合を10%以下とする。 ⑧全教員が2回以上、ねらいに迫るICT機器の効果的活用をめざす公開授業研究会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○共に学ぶことの楽しさに気づけるような指導を進め、「対話的な学び」の実現に繋げる。 ○生徒の興味関心や主体的学習に繋がる課題開発を進める。 ○他教員の参観を重ねながら、ICT機器の効果的活用に向けて実践を重ねる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●⑥の割合が目標値を下回った。(50%) ●⑦の割合が目標値を下回った。(24%) ○⑧については全員実施でき、ICTの利活用についても大きく成果が見られた。 ●⑧について、せっかくの公開授業に参観に行けず研修機会を活かせなかった。 ▲言語活動の充実という面では、まだまだ課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間の効果的な運用 ・言語活動の充実を目指した授業改善(発表方法・傾聴姿勢・効果的グループワーク) ・AIドリルを含めた個別学習の充実 ・分かる授業・学ぶ事の楽しさを実感できる授業改善 ・生徒の興味関心・主体的学習に繋がる課題開発
③道徳や特別活動を充実させ、豊かな人間性を育む					
評価項目とその観点	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒指導の充実 ○自己肯定感を高め、共感的人間関係を育み、自己決定を大切にしたい指導を積み上げる。 ◆道徳教育の充実と地域道徳の定着 ○「考え、議論する道徳」の指導を進め、さらに地域総がかりで道徳性を育む地域道徳を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨「自分には良いところがある」との回答割合を70%以上とする。 ⑩「殿中行動宣言」具現化に向けた取組を年3回以上実施する。 ⑪「考え議論する」道徳の指導の確立をめざし、道徳の授業参観を実施する。 ⑫親子道徳を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブロック活動等、自己肯定感、共感的人間関係を育む機会を増やす。 ○様々な機会を捉えて、評価・表彰並びに作品掲示を実施する。 ○QUテスト結果による科学的分析に基づき、居心地のいい学級づくりのための研修を行う。 ○「考え、議論する道徳」の確立に向け、校内での互いの参観を重ね、指導に繋げる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○⑨の割合が大幅に上昇した。(80%) ○⑩では、地域道徳に関する様々な取組(感謝・郷土愛)を効果的に実施できた。 ▲⑪「考え議論する」道徳に向けては、教材の読込や準備等、課題が見られる。 ○⑫は参加者も多く、日頃聴けない思いを受け止める機会となり、定着した。 ○生徒を評価する様々な機会を設けた。 ○QU結果の分析や講師招聘により、学級経営についての学びが深まった。 ○異年齢集団での取組が充実していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック研で学んだ視点を大切にし、道徳の校内研を実施する。 ・学級経営の充実に向け、「安全・安心な風土の醸成」の視点を押さえる。 ・ケースリストの効果的活用を図り、不登校生徒を含め対象生徒個々の現状把握と手だてを考える。 ・生徒を正しく評価する機会を設定する。 ・各活動がどの非認知能力の育成を目指すのかを皆で共有する。
④将来を見据えたキャリア教育の充実を図る					
評価項目とその観点	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ◆キャリア教育の充実 ○多様な生き方に触れる機会をもとに、働くこと、生きることの意味や意義の理解を深める。 ○キャリア・パスポートを活用し、自らの生き方を描く力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫「将来の夢や目標がある」との回答割合を80%以上とする。 ⑬「失敗を恐れず挑戦する」との回答割合を70%以上とする。 ⑭地域人材の活用や体験活動による様々な価値観の投げかけにより、将来への明るい展望を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○憧れや見本となる大人との関わりの機会を設定する。 ○高みを目指すことができる雰囲気をつくる。 ○キャリア・パスポートの効果的運用を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●⑫の割合が目標値を下回った。(73%) ●⑬の割合が目標値を下回った。(64%) ○⑭により、将来への見通しや意欲の向上に一定繋げることができた。 ○高みを目指す学校全体としての機運の向上(英検・各種コンクール) ●将来を見据えた家庭学習の重要性に気づかせ価値観投げかけ不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の中でキャリア教育の視点で考えさせる機会をつくる。 ・進路実現に何が必要かを考え、自ら学習に向かおうとする気持ちと習慣を養う。 ・キャリア・パスポートの効果的運用について皆で考える。
⑤コミュニティ・スクールとして地域との協働を充実させる					
評価項目とその観点	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニティ・スクールの推進 ○学校運営協議会とPTAとの協働の機会を設定する。 ○熟議内容をもとに、地域とともにある学校づくりを進める。 ○地域人材や資源を活用した地域道徳を引き続き推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑮学校運営協議会を5回以上、また熟議を1回以上は実施する。 ⑯地域人材等も活用しながら地域道徳(親子道徳含む)を行う。 ⑰「殿中行動宣言」の具現化に向け、「支えられる立場から支える立場へ」のキーワードをもとに、地域貢献等の取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○熟議等により、学校運営協議会委員と生徒の交流の機会を設定する。○学校運営協議会とPTAとの協働の機会を設定する。 ○地域コーディネーターとの円滑な連携を進め、地域人材や資源の新たな開発を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○⑮は3回にとどまったが、生徒も交えた効果的な熟議の結果、様々な地域道徳の取組を実現できた。 ○⑯地域人材の参加はできなかったが、保護者の参加が多く充実していた。 ○⑰の具現化に向けた多くの取組(地域貢献)を実現でき、「支えられる側から支える側へ」を意識化させることができた。 ▲学校運営協議会とPTAが共に活動する機会を設定できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会とPTAと共に活動する機会の設定 ・生徒を交えた熟議の継続と方法の工夫 ・「支えられる側から支える側へ」の意識の浸透をめざし、持続可能な地域貢献の取組を続ける。 ・ねらい・付けさせたい力を皆で共有して各取組を進める。

◎達成度については、「A・B・C・D」の4段階表記とする。(A：十分な成果が見られた、B：成果が見られた、C：課題が見られる、D：課題が大きい)

<p>〈第三者評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した校内研究会の実施により、ICTを活用した授業の推進や安全安心な学級経営づくりの充実が図られている。 ・異年齢集団の取組や地域行事での生徒主体の各取組により自己肯定感や有用感の高まりが見られ、充実した教育活動が展開されていたことが分かる。 ・道徳教育やキャリア教育などにおける学習・体験活動の工夫充実により、心の醸成と学びへの意欲が高められている。また、これまでの郷土学習を更にバージョンアップさせ、持続可能な形で体験活動やキャリア教育等、充実した教育活動を進めておられる実践から学ぶことが多くある。 ・外部講師を有効活用したキャリア教育が、生徒の将来への展望に繋がる取組になっている。 ・今年度様々な形で小学校に関わっていただいたことが、児童の中学生へのあこがれや期待につながっていると実感している。中学校生徒のリーダーシップによる各小学校へのよい刺激になる働きかけにより、一層ブロックとしての取組もさらに充実すると思う。

<p>〈保護者アンケート結果の概要〉 ()内は前年比</p> <ul style="list-style-type: none"> ○肯定的意見の割合が増えたもの <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、正しい服装、遅刻、挨拶等の基本的な生活習慣に対する指導に努めている。87%(+5P) ・学校は、道徳の時間等を通して、命を大切にすること、思いやりの心、善悪のけじめ、集団生活のルールや社会のマナーを守る態度等を育てている。97%(+5P) ・学校は、学校行事・体験活動等に力を入れ、充実した学校生活に向けて工夫している。94%(+4P) ▲肯定的意見の割合が減ったもの <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣が身につけてきている。47%(-34P) ・学校は、宿題・自主学習ノートの取組等を通して、家庭学習充実に向け支援を行っている。68%(-15P) ・教職員は、生徒をよく理解し、その能力や努力を適切に評価している。76%(-11P) ・学校は、授業や多様な学習支援を通して、基礎・基本の定着に努めている。78%(-10P) ・教職員は、授業改善や様々な工夫を通して、分かりやすい授業をするよう努めている。80%(-10P) <p>※非認知能力の育成に向けての取組については一定評価を頂いている一方、認知能力の育成については厳しい評価となった。結果を謙虚に受け止め、次年度の取組に活かしていきたい。</p>
--